2026 年 3 月 30 日

智辯学園和歌山小学校

2025 年度 学校評価

1. 学校教育目標

誠実・明朗（知性と品格をそなえた 明るく元気な子へ）

目指す人物像：①明朗で知性あふれる人

②不屈の精神を持って使命感を全うする人

③自己を確立しつつ社会性豊かな人

④この世に生を受けた幸福を知る人

12 年一貫教育で育てる 3 つの力：

たくましい心と体、確かな学力と主体的対話的に学ぶ力、豊かな人間性

2. 2025 年度重点目標

主体的対話的に学び、“智慧”をはぐくむ

3. 学校関係者評価委員会

育友会役員、育友会委員（保護者会会員）

4. 学校関係者評価

(1)児童の生活姿勢

学校への満足度・登校意欲は高い。自立や他者への思いやりの成長が見られる。言葉遣いや自立した生活習慣の定着には課題が残っている。

項目	平均
学校に前向きか	4.7
学校を楽しんでいるか	4.6
よい言葉遣いか	3.7
朝食を摂っているか	4.5
自立しているか	3.3
家の仕事に参画しているか	3.7
将来の夢や目標があるか	4.1
総スコア平均	**4.1**

(2)児童の学習姿勢

児童が学校に通うことや学校の教育活動を非常に前向きに考えられていることが分かる。学校内での主体的に学ぶ姿勢は評価できる。ただ、家庭での学習姿勢や読書への自主的な習慣が未定着のようである。

項目	平均
学習に前向きか	4.3
家庭学習の習慣があるか	4.0
読書に親しんでいるか	3.5
集中して学習しているか	3.6
丁寧な学習姿勢か	3.4
親は前向きに支援しているか	4.1
自習や復習をしているか	3.5
ネットやゲームは家庭で決めたルールを守っているか	3.8
総スコア平均	**3.7**

(3)学校運営

教育活動への満足度は高い。中高連携の説明や情報提供は、内容とタイミングを再検討する必要がある。また、個別では、情報発信や施設設備への要望があるのでこちらも検討する必要がある。

項目	平均
前向きに学ぶ教育活動を実施しているか	4.4
教育内容や教育の趣旨について適切に周知しているか	4.3
学習するための施設・設備が充実しているか	4.3
保護者の意見や願いを大切にしているか	4.3
心の教育を重視した情操教育を行っているか	4.2
保護者は 学校運営にもっと参画・協力したいか	3.7
総スコア平均	**4.2**

(4)教職員の教育姿勢

保護者から非常に高い信頼を得ている。子どもが学校で教職員に相談しやすい学校風土づくりはまだ十分とは言えない。

項目	平均
こども一人ひとりに丁寧な学習指導を行っているか	4.3
子どもが安心できる学級運営を行っているか	4.4
子どもに寄り添い、相談しやすい体制であるか	4.2
保護者の相談に適切に応じているか	4.4
子どもの学習や学校生活の様子を保護者に伝えられているか	4.4
総スコア平均	**4.4**

5. 成果

学校関係者評価により、児童たちは学校に通うことや学校での活動に、非常に前向きであり、学習にも前向きであることは分かった。これは、2025 年度当初より教育目標に掲げた「主体的対話的に学ぶ」を実現するために、教職員が児童に寄り添うことに加えて、児童同士の対話活動の重要性と方法論を学び、実践の中で研鑽した結果だと言える。また、学期ごとに行った生活アンケートと、それを基にした一人ひとりへの教育相談により、児童自身が自分の成長と課題と向き合い、教員からも認められる取り組みの成果でもある。これらの取り組みにより、教職員の意識が高まり、児童保護者との関わり方が解決志向に向かっている。

また、学習に関して、児童の学びに向かう力は年々向上し、学校関係者にもそれが伝わっている。これは体験を通した学びを更に充実させ、児童が主体的に学びたくなる授業設計に注力した教員たちの成果である。

今後も児童一人ひとりが安心して登校し、教育活動に参画できる学校風土づくりができるよう、教職員全員で研鑽を積み重ねていく。さらに、適切な支援・連携の在り方に関して、保護者と教職員で情報交換や相談をすることで、児童の成長を支援していきたい。

6. 課題

A 家庭での読書習慣や主体的な学習姿勢

これに関して、十分とは言えない結果である。児童は学校で主体的に学べている実態から、学校の教育活動の中で読書に親しむ習慣や家庭学習への取り組み方を身に付けられるように取り組んでいくことが効果的であると考えられる。

B 保護者への情報発信

保護者への情報発信には一定の満足度が得られている。ただ、個別の意見から中学高等学校への情報発信に関して保護者は充分と感じていないことが分かった。この点に関しては、以前からも課題としていたため、今年度はより充実させるために以下の中学高等学校の情報発信や交流行事を実施した。

・小学校 4～6 年生のみ対象に進学オリエンテーション(先輩アドバイス含む)　 年 1 回
・小学校 4～6 年生保護者向けの進学説明会　年 1 回
・小学校 6 年生児童・保護者対象の進学オリエンテーション　年 2 回
・小学生全員対象の中学高等学校吹奏楽部演奏会
・小学校 6 年生対象の野球教室

今回の学校関係者評価では、特に第 1 ～ 4 学年にかけて中学校高等学校の情報を求めていることが分かった。

C いじめ未然防止の取り組みの周知

個別の要望としては、いじめ未然防止の取り組みの周知があった。この点に関しては、保護者間でのトラブルの際、いじめの定義や未然防止の取り組みの周知不足が話し合いの中で露呈したケースもある。

7.　改善方策

A 家庭での読解や主体的な学習姿勢

児童一人ひとりが自主自律した学習者に成長できるよう、教育活動を充実させていく。また、補充学習の案内や教材を充実させることで児童が予習や復習などの家庭学習に取り組みやすい体制を確立していく。

B 保護者への情報発信

保護者への情報発信として、学校の教育活動の様子をＳＮＳでほぼ毎日配信した結果、保護者から子どもの様子がよく分かることの安心と学校教育の取り組みへの賛同の声が多かった。更に、中学校進学に向けての情報発信を充実するために、全学年の保護者が進学オリエンテーションに任意参加できるようにするとともに、学校だよりなどでその内容を発信していく。これにより、低学年から保護者と教育の見通しを共有し、小学校教育への理解がより一層深まると期待される。

C いじめ未然防止の取り組みの周知

今年度は上記ケースを受け、事後対応として学級通信や保護者会で周知を図った。次年度は保護者全体会や学校だよりにて、保護者全員に周知していくこととする。また、日々の児童や保護者との連携を大切にし、相談しやすい関係性を築いていく。